

三井不動産が運営・管理する物流施設にて 「アースデイ 2026」に関する取り組みを実施 ～外壁サイネージ消灯を通じ環境配慮を推進～

三井不動産株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長 植田 俊、以下「三井不動産」)は、アースデイの地球環境保護への考え方に共感し、様々な人の目に留まる物流施設における節電活動として、2026年4月22日(水)のアースデイに合わせて、全国8都府県のMFLP・MFIP計24物件において、通常夜間に点灯させる施設外壁サイネージの消灯を実施しました。

本取り組みは、一般社団法人不動産協会 物流事業委員会の呼びかけにより開始され、同委員会参加企業のうちアースデイの趣旨に賛同した各社にて連携し実施しています。



「アースデイ 2026」の取り組みの様子

■対象物件

MFLP 平塚Ⅱ / MFLP 厚木Ⅱ / MFLP 川口Ⅰ / MFLP 横浜大黒 / MFLP 日野 / MFIP 羽田 /
MFLP 八千代勝田台 / MFLP 市川塩浜Ⅱ / MFLP 船橋Ⅰ / MFLP 船橋Ⅱ / MFLP 船橋Ⅲ / MFLP 平塚Ⅲ /
MFLP 新木場Ⅱ / MFLP 座間 / MFLP・LOGIFRONT 東京板橋 / MFLP 仙台名取Ⅰ / MFLP 稲沢 /
MFLP 大阪交野 / MFLP 堺 / MFLP・OGUD 大阪西島 / MFLP 名古屋岩倉 / MFLP 広島Ⅰ /
MFLP 立川立飛 / MFLP 茨木

■アースデイとは

アースデイとは、1970年にアメリカのG.ネルソン上院議員が発案し、4月22日を「地球の日」としたことを宣言したことを契機に広まった活動です。地球環境を考え、個人それぞれができることをするという多種多様なスタイルが特徴で、全世界で地球環境を考えるさまざまな催しが4月22日に開かれています。

■三井不動産の物流施設事業について

三井不動産は、2012年4月にロジスティクス本部(旧 物流施設事業部)を立ち上げて以来、物流施設開発に注力しております。現在では、「三井不動産ロジスティクスパーク(MFLP)」を旗艦ブランドとして、「MFLP 船橋Ⅰ」や「MFLP 海老名Ⅰ」など、国内外で開発施設 81 物件(国内:68 物件、海外:13 物件)を展開しております。「ともに、つなぐ。ともに、うみだす。」を事業ステートメントとして掲げ、入居企業の皆さまの課題解決パートナーとして、多種多様なヒト・モノ・コトをつなげること、既存の枠にとらわれない価値づくりに挑戦してまいります。

■三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「&マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪ととらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によって更に大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。

2024年4月の新グループ経営理念策定時、「GROUP MATERIALITY(重点的に取り組む課題)」として、「1. 産業競争力への貢献」、「2. 環境との共生」、「3. 健やか・活力」、「4. 安全・安心」、「5. ダイバーシティ&インクルージョン」、「6. コンプライアンス・ガバナンス」の6つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取り組み、サステナビリティに貢献していきます。

【参考】

・「グループ長期経営方針」 <https://www.mitsufudosan.co.jp/corporate/innovation2030/>

・「グループマテリアリティ」 https://www.mitsufudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality/